

「労働解放」団

1883年にスイスのジュネーヴで創設された最初のロシア人のマルクス主義的グループ。同団の創設者はゲ・ヴェ・プレハーノフであった。同団はロシア社会民主労働党の第二回大会（1903年）まで存続した。「労働解放」団は「ロシアにマルクス主義を普及させるための大きな仕事をやりとげ、社会民主党を理論的に基礎づけ、労働運動にむかって第一歩をふみだした」（『ソ同盟共産党小史』国民文庫版、上巻、32ページ）。同団は、マルクス主義の創始者たちの諸著作、すなわちマルクス＝エンゲルスの『共産党宣言』、マルクスの『賃労働と資本』、エンゲルスの『空想から科学への社会主義の発展』その他をロシア語に翻訳し、国外で印刷に付し、秘密にロシアにひろめはじめた。プレハーノフとその「労働解放」団は、ナロードニキ主義に決定的な打撃をあたえた。しかし、「労働解放」団にはまた重大な誤謬もあり、それは、プレハーノフとその他の団員の後年のメンシェヴィキの見解の萌芽であった。同団の活動と、その歴史的役割の評価については、『ソ同盟共産党小史』第一章を見よ。

第 20 卷 P551 事項訳注

ウリヤーノフ、ア・イ(1866～1887年)

レーニンの兄、革命家。「人民の意志」派の同志とともにアレクサンドル三世の暗殺を企てたが、1887年3月1日に逮捕され、死刑に処せられた。

レーニン 1887年に拘禁(数日間)

「人民の意志派グループ」

1891年に成立し、1896年に消滅した。このグループは「人民の意志」主義から徐々に社会民主主義へ移行した。グループの個々の成員は、そののちロシア社会民主労働党の積極的な活動家となった。このグループは自分の印刷所でペテルブルグ「労働者階級解放闘争同盟」の若干の出版物、たとえばレーニンの小冊子『工場で労働者から徴収される罰金にかんする法律の説明』を印刷した。この同じ印刷所で、1896年に獄中からおくられてきたレーニンの小冊子『ストライキについて』が印刷される予定になっていた。しかし、ツァーリ政府が印刷所を破壊した結果、この小冊子を印刷することはできなかった（小冊子の原稿は、こんにちまで見つからない）。

第 20 卷 P550 事項訳注

「在外ロシア社会民主主義者同盟」

1894年にジュネーヴで「労働解放」団の提唱によって創設された。この同盟は自分の印刷所をもち、そこで革命的文献を印刷し、雑誌『ラボートニク』を発行した。はじめには「労働解放」団が「同盟」を指導し、その出版物を編集した。のちには、日和見主義分子（「若手組」——「経済主義者」）が「同盟」を牛耳った。1898年11月に、第一回「同

盟」大会で「労働解放」団は「同盟」の出版物の編集を拒絶した。終局的な決裂と、「労働解放」団の「同盟」からの脱退とは、1900年4月に第二回「同盟」大会で行われた。そのとき「労働解放」団とその同志たちは大会から退場して、独立の組織「社会民主主義者」団を創設した。 第20巻 P550 事項訳注

「労働者階級解放闘争同盟」

1895年の秋にレーニンによって組織された。ペテルブルグのマルクス主義的な労働者サークルの全体がこれに統合された。「闘争同盟」の頭に立ったのは、レーニンの指導する中央グループであった。レーニンの「闘争同盟」は、革命的労働運動を指導し、経済的要求のための労働者の闘争を、ツァーリズムにたいする政治闘争とむすびつけた。「闘争同盟」は、ロシアではじめて、**社会主義と労働運動との結合**を、先進的労働者の小サークル内でのマルクス主義の宣伝から、労働者階級の広範な大衆のあいだでの政治的煽動への移行を実現しはじめた。「闘争同盟」は、労働者めあてのリーフレットや小冊子を出し、ストライキ運動を指導した。「闘争同盟」はその影響力をペテルブルグの境界外はるか遠くまでもおしひろめた。それは「ロシアのその他の都市や州でも、労働者のサークルをこれと同じような同盟に結合させるための力づよい刺激をあたえた」（『ソ同盟共産党小史』国民文庫版、上巻、36ページ）。1895年12月8日から9日（20日から21日）にかけての夜に、レーニンを先頭とする「闘争同盟」の指導的中核が逮捕された。獄中にあってもレーニンは革命闘争を中絶しなかった。彼は、リーフレットや小冊子を書いて獄外におくりだし、「闘争同盟」に助言と指示をあたえて、これを援助した。獄中でレーニンは党の綱領草案をも書いた。「ペテルブルグの『労働者階級解放闘争同盟』の意義は、レーニンの表現によれば、それが労働運動に立脚する革命党の最初の重要な萌芽をなしていた点にある。」（『ソ同盟共産党小史』国民文庫版、上巻、36ページ） 第20巻 P543 事項訳注

レーニン 1895～1897年 拘禁(14ヶ月および東部シベリアへ流刑3年)

「ロシア社会民主労働党」第一回大会 1898年のロシア社会民主主義者大会——

ロシア社会民主労働党の第一回大会が1898年3月にミンスクでひらかれた。大会には六つの組織——ペテルブルグ、モスクワ、エカテジノスラフ、キエフの各「労働者階級解放闘争同盟」、キエフの「ラボーチャヤ・ガゼータ」グループ、ブンド（ユダヤ人労働者同盟）——の九人の代議員が参加した。大会は中央委員会を選出し、『ラボーチャヤ・ガゼータ』を党の公式の機関紙として確認し、『宣言』を発表し、「在外ロシア社会民主主義者同盟」を党の在外機関として公認した。大会後まもなく中央委員たちは検挙された。ロシア社会民主労働党第一回大会の意義は、その諸決定と『宣言』とのうちでロシア社会民主労働党の創立を宣言したことにある。 第四巻 P478

一八九八年の宣言

第七巻 P592

一八九八年三月にミンスクでひらかれたロシア社会民主労働党第一回大会（上記参照）の発した『宣言』のこと。この『宣言』は、多くの点で不十分であった。すなわち、それは、プロレタリアートによる権力獲得の任務をぬかし、プロレタリアートのヘゲモニーについて一言もふれず、ツァーリズムおよびブルジョアジーにたいする闘争におけるプロレタリアートの同盟者（農民）についても言及していなかった。